



植草学園

# 高校生プレゼンテーションコンテスト 2018

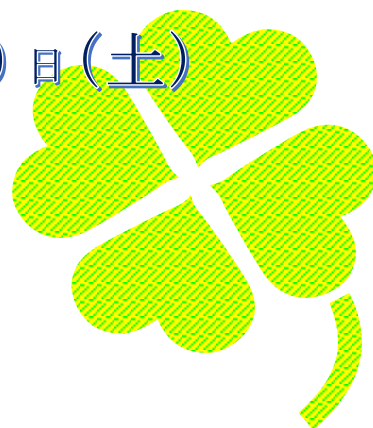
同時開催：学園祭（緑栄祭）

2018年(平成30年)11月10日(土)

10:00 プレゼン開始

12:40 プレゼン終了

14:00 表彰式



会 場：さくらホール(M棟3階)

**主催：植草学園大学・植草学園短期大学**

**後援：千葉県、千葉市、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会**

**千葉県社会福祉協議会、千葉市社会福祉協議会**

**千葉県高等学校長協会、千葉県特別支援学校長会**

**株式会社千葉日報社**

★ご聴講の皆様へのお願い★

- 会場内での飲食は、ペットボトルなどの蓋付きの飲み物以外はご遠慮いただいております。ご理解とご協力をお願いします。
- 携帯電話の使用はお控えくださるようお願いいたします。また、使用しない場合でも音が鳴らないようにするか、あるいは電源をお切りになるかして、音が出ないように設定してください。

---

---

## 開催にあたって

---

---

本日は、ご多用にもかかわらず本学主催の「植草学園 高校生プレゼンテーションコンテスト 2018」においでいただき、心から御礼申し上げます。

植草学園は、1904年(明治37年)に創設した「千葉和洋裁縫女学校」を起源としております。1999年(平成11年)に植草幼児専門学校を改組し、植草学園短期大学を設置し、さらに2008年(平成20年)に植草学園大学を開学いたしました。これまでに大学と短大で、幼稚園・小学校・特別支援学校の教員、保育士、介護福祉士、理学療法士などを多く輩出してまいりました。現在も建学の精神である徳育を教育の根幹に位置づけ、『障害者支援を学ぶことは、すべての支援の本質を学ぶことである』をスローガンに「インクルーシブ教育」「共生社会の実現」に寄与できる人材を養成しております。

さて、このたび地域貢献の一つとして、高校生の自己実現を支援するとともに、広く共生社会づくりに資するため、本学としては初めてのプレゼンテーションコンテストを開催いたします。テーマは、「理想の共生社会をめざして～実現に向けていま私ができることとは～」です。大変大きなテーマで、どうアプローチしていくか容易ではないと思われませんが、12校15組の高校生たちがどんな発表を見せてくれるか、創意あふれるプレゼンテーションに大きな期待をしております。

終わりに、本コンテストの開催に当たり、ご指導いただいた各校の先生方、また、本企画にご賛同いただき、ご後援いただいた団体、企業の皆様に厚く御礼申し上げます。

聴講される皆様におかれましては、発表する高校生への応援とともに、同時開催の学園祭を大いに楽しんでいただきますようお願いし、ご挨拶といたします。

植草学園大学・植草学園短期大学  
学長 中澤 潤

---

---

# プログラム

---

---

## ◆テーマ

『理想の共生社会をめざして』 ～実現に向けていま私ができることとは～

## ◆日 程

開式／挨拶

10:00

） プレゼンテーションⅠ（8組）

11:20

） 休 憩

11:30

） プレゼンテーションⅡ（7組）

12:40

） 昼休憩 及び 審 査

14:00

結果発表・表彰／閉式

## ◆発表団体 15組（学校番号順。発表順ではありません。）

（千葉県立）10校11組

若松高等学校、千城台高等学校、松戸向陽高等学校、佐倉東高等学校

佐倉西高等学校、佐倉南高等学校、四街道高等学校、松尾高等学校

木更津高等学校、千葉聾学校

（千葉私立）2校4組

学校法人千葉敬愛学園 千葉敬愛高等学校

学校法人植草学園 植草学園大学附属高等学校

## ◆審査方法及び審査員

### 【審査方法】

観点別で8項目について採点し、合計得点で順位を決定します。

### 【審査員】

#### ・学外委員 < 50音順、敬称略、○審査員長 >

○青木 茂 千葉市若葉区長

奥山 慎一 千葉県教育庁教育振興部長

佐川 桂子 千葉県特別支援学校長会長（県立君津特別支援学校長）

白戸 章雄 千葉県社会福祉協議会長

萩原 博 株式会社 千葉日報社 取締役会長

廣部 泰紀 千葉県高等学校長協会会長（県立木更津高等学校長）

#### ・学内委員

中澤 潤 植草学園大学・植草学園短期大学 学長

高野 良子 植草学園大学副学長

小池 和子 植草学園大学保健医療学部長

## ◆表彰・副賞

最優秀賞：1組 賞状、盾、図書カード3万円

優秀賞：2組 賞状、盾、図書カード2万円

奨励賞：若干組 賞状、図書カード1万円

参加賞：全員

## プレゼンター／テーマ紹介

発表順	学校名	学年	プレゼンター
	テーマ・概要		
1	学校法人 植草学園 植草学園大学附属高等学校	3年	山田 花菜, 峯下 さつき
	共生社会での自立支援を目指して		
	<p>I プレゼンテーションコンテストに参加しようと思ったきっかけ。</p> <p>児童から高校生を対象としたデイサービス(バンブー アイランド @ 都賀)で障がい者の子どもをもつ保護者から話を伺う機会があり、障がい者のいる家族は特別な家族ではなく、障がい者のいない家族と、家族としての差は無いことを伝えたいと思いました。また実際山田の家族は障がい者のいる家族であり、以前から「障がい者のいる家族」についてみなさんに伝えたいことがありました。このような企画に参加でき光栄です。</p> <p>II 障がい者のいる家族 「特別な家族」というわけではないということ。</p> <p>デイサービスで伺った話と、山田の家族についてお話しします。</p> <p>III 現代社会での問題点</p> <p>共生社会が理想とされている今日でさえ、さまざまな差別を受けることがあります。具体例をいくつかあげます。問題点は、人々の認識不足、理解不足であるという方向です。</p> <p>IV 私たちが考える共生社会での自立支援について</p> <p>みなさんに理解してもらうためにどうしたらよいかを発表します。自立支援の成功例として千葉公園にある喫茶店を紹介する予定です。</p>		
2	学校法人 千葉敬愛学園 千葉敬愛高等学校	3年	青柳 孝拓
	日本の伝統文化と共に生きる。		
	<p>&lt;あらすじ&gt;</p> <p>日本の伝統文化の代表でもある「祭礼」は、様々な各地で、季節や年齢も性別も問わず、行われている。参加者の中には、障害を抱えた人を私は何度か見たことがある。彼らの症状は様々で、足が悪い人や耳が聞こえない人、脳に疾患があり知的能力が補えない人など…しかし彼らは、自分が苦しい状況にあるにも関わらず、なぜか笑顔で周囲にいる私たちよりも楽しんでいる。そして自然に、周りにいる人たちも彼らの手助けをしたりし、一丸となって楽しんでいる。なぜこのような事がおきているのか、また、中にはお祭りに行き楽しみたくても楽しむことができない彼らがいる。そんな彼らに私たちがどのようにして、手を差し伸べるのか…。</p> <p>&lt;発表の流れ&gt;</p> <p>自己紹介、話の流れについて、自分の体験談、課題となることは何か、私たちがなぜ手を差し伸べる重要な意味とは、まとめ</p> <p>&lt;アピールポイント&gt;</p> <p>現役の地元のお囃子会所属、お祭りが好きな自分の今まで見てきた実話をもとに、障害者の方々と私たちが今、どうかかわるべきかを自分なりの考えをわかりやすくまとめ、発表します。</p>		

<p>千葉県立四街道高等学校 (JRC 同好会)</p>	<p>1年</p>	<p>遠藤 有真, 高橋 あすか, 市原 優海</p>
<p>筋ジストロフィー病棟高校生ボランティア –はじめの一步, そして定着へ–</p>		
<p>3</p>	<p>&lt;はじめに&gt;  JRC (Junior Red Cross: 青少年赤十字) 同好会では, 4年前から下志津病院の病棟ボランティアに参加している。4月に筋ジス病棟の患者さんから, 病気のことやボランティアの必要性を伝えたいという依頼が学校に届き, 校内でボランティアを募集し, 7月に病院での意見交換会が実現した。</p> <p>&lt;ボランティアの花を咲かせる会&gt;  患者さんの代表者は, 入院生活が長いこと, ボランティアの高齢化などが問題となっていること, 『筋ジス病棟に高校生のボランティアを定着させる』ことについて一生懸命話してくれた。患者さん, 高校生, 教員, ボランティアが混ざりあってグループ討議を行い, 最後に全員で『世界に一つだけの花』を合唱した。患者さんはこの会を『ボランティアの花を咲かせる会』と名づけた。</p> <p>&lt;次のステージへ&gt;  学校へ戻りJRCと有志生徒は感想や意見を述べ合い, 今後も患者さんとの交流を続けていくことにした。夏休みに入り, 病棟でのボランティアの際に, 患者さん全員で夏の高校野球での四高野球部の活躍を応援して下さって, ベスト8に進出したことを大変喜んでくれていることを知った。看護師長さんからの相談もあり, 野球部員の病棟訪問が実現した(8月3日, 千葉日報に掲載)。</p> <p>&lt;ボランティアリクエストカード&gt;  9月に私たちJRCは患者さんからの願いを実現するために, “私たち高校生に何ができるか”について時間をかけて話し合った。その結果, 患者さんの一人ひとりの希望の把握と, 生徒が自分にできそうなボランティアを選択し, 気軽にボランティアに参加することが同時にできる『ボランティアリクエストカード』考案した。このカードによるボランティアは従来の病棟ボランティアとは別の『新たなボランティア』として立ち上げることを病棟で検討していただけることになった。</p> <p>&lt;むすびに&gt;  今, 私たちにできることは, “患者さんが希望すること”を『まずひとつ』, 実現するために, はじめの一步を踏み出すことである。</p>	
<p>千葉県立木更津高等学校</p>	<p>2年</p>	<p>林 洋太</p>
<p>「他者を否定」から「その人らしさを尊重しあえる」社会へ</p>		
<p>4</p>	<p>共生社会の実現には「その人らしさ」を否定する社会を変える必要があると考えた。前提として私は障害は「その人らしさ」の一つだと考えている。そこで私が着目したのが身近な環境である学校だ。学校をお互いがお互いを尊重し, その人らしく生きられる場所にしたいと考えた。具体的には授業形式でクラスにプレゼンテーションを行った。それによって社会に影響を及ぼせるのではないかと考えた。また, 本番では自分の考えを聴き手に伝えたい。</p>	

5	千葉県立佐倉西高等学校 (福祉コース)	2年	石井 春奈, 石坂 七海, 梅沢 まいか, 小野寺 優人 金子 千乃, 加福 悠華, 釜塚 瑠威, 菊地 紗礼 越川 ありさ, 小島 舞花, 高崎 志歩, 竹中 美羽 寺門 歩, 廣本 奈海, 布施 遼太, 前田 優花 安納 れの, 依田 七夕					
	<b>共生社会の実現に向けて</b>							
	1年生で学んだ「共生社会と福祉」やこれまでの福祉の学びを通して、共生社会とは何なのかを考えました。そして、その共生社会は今の社会で実現できているのかを検討しました。私たちが考える共生社会の実現に向けて、私たち自身ができることや周りの人たちや地域と協力してできることを発表します。							
6	千葉県立佐倉南高等学校	3年	曾根 くるみ, 佐藤 美海, 杉田 有紀					
	<b>様々な文化との共生</b>							
	様々な文化の共生が必要となるグローバル社会では、言葉だけではどうにもならないことがあります。私たちはピクトグラムを通じて、言葉を必要としないコミュニケーション、意味伝達の普及を考えました。また、高校の授業で習った「情報テクノロジー」を通じて、スマートフォンやICTを活用した言語に捕らわれない、情報の伝達方法を提案します							
7	千葉県立佐倉東高等学校	3年	青木 梨咲					
	<b>福島仮設住宅訪問ボランティアを通して学んだ共生社会のありがた</b>							
	<p>パワーポイントのスライドを利用し、次の順番で説明していきます。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 タイトル(表紙)</td> <td>4 実際に見学した被災地の現状①</td> </tr> <tr> <td>2 ボランティアの概要</td> <td>5 実際に見学した被災地の現状②</td> </tr> <tr> <td>3 炊き出しで被災者に提供した料理などの説明</td> <td>6 ボランティアを通してわかったこと、学んだこと</td> </tr> </table>			1 タイトル(表紙)	4 実際に見学した被災地の現状①	2 ボランティアの概要	5 実際に見学した被災地の現状②	3 炊き出しで被災者に提供した料理などの説明
1 タイトル(表紙)	4 実際に見学した被災地の現状①							
2 ボランティアの概要	5 実際に見学した被災地の現状②							
3 炊き出しで被災者に提供した料理などの説明	6 ボランティアを通してわかったこと、学んだこと							
8	千葉県立千城台高等学校 (剣道部)	1, 2年	大田 航輝(2年), 尾河 映亮(1年) 久志本 琉斗(1年), 小松 優輝(1年) 堤 駿樹(1年), 吉田 和馬(1年)					
	<b>部活動と地域貢献</b>							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千城台高校剣道部の簡単な紹介をしてから、私たちが部活単位で行っている地域貢献活動とその狙い、今後の目標などについて説明します。</li> <li>・今はまだ部活動単位の活動ですが、今後学校単位や地域単位で地域貢献活動を行えるようにするためには、今自分たちが何をして、何を伝えていく必要があるかについてまとめました。</li> <li>・アピールポイントは、部活動単位だからできる、部活動単位でしかできない地域貢献活動についての紹介です。他にはなかなかない目新しい内容だと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。</li> </ul>							



	千葉県立千葉聾学校	2年	武石 渉
	共生社会に対する私の考え		
9	<p>① 自分の障害について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞こえ方や伝わり方について</li> </ul> <p>② 共生社会に対する私の考え(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害に関する法律がたくさん作られる中、障害者も健常者も含めて、一人一人が考えを改めていかないと、共生社会にはなっていないという想い。</li> </ul> <p>③ 自分の経験【近隣の学校との交流学习を通して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に交流してみて、健聴者から「耳が聞こえなくても、補聴器があれば、口話だけでもわかるんだね。」と言われた。相手は、私が聞き取ることができないと思っていたので、とても驚いていた。その様子を見て、私も驚いた。交流してわかることはたくさんある。</li> </ul> <p>④ 共生社会に対する私の考え(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いが相手を理解しあうことで、共生社会といえる。</li> </ul> <p>私は自分のことを知ってもらいたいので、これからも自分から積極的に、自分のことをアピールしていきたい。</p>		
	千葉県立松尾高等学校	2年	小高 采音, 小野瀬 真尋, 鎌形 佳奈 古関 望乃, 佐久間 未来
	共生するまちづくり		
10	<p>&lt;コンセプト&gt; 高齢者、子ども、障害者、健常者、全ての人が協力し合える住まいづくり</p> <p>①全ての人が時間を共有できるまちをつくる。</p> <p>②住民→障害者、高齢者、子ども連れの家族全員が幸せになれるまち</p> <p>③場所→人気のないマンションを活用する。</p> <p>④設備を全てバリアフリーに健常者も安心して暮らせる。</p> <p>⑤1階に託児所、フリースペース、屋上には公園等を設け、住民達が時間を共有できる。</p> <p>⑥A: 障害者でも楽しめるスポーツイベントの実施 B: 高齢者が昔の遊びを教えるようなイベントの実施 AとBをローテーションで定期的実施する。</p> <p>⑦同じ施設内で暮らすことで、いろいろな人と触れ合うことができる。</p> <p>⑧まとめ: 高齢者や障害者が支援されるだけでなく、協力し合い、楽しめるまちをつくることできる。</p>		
	千葉県立若松高等学校	3年	原田 彩菜, 南木 千花
	今、私たちが地域にできること		
11	<p>1 高校生の地域活動の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活発とは言えない。=意識されていない。</li> </ul> <p>2 ボランティアへの意識の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本におけるボランティア活動への意識の高まり</li> </ul> <p>3 固定観念を変える取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の社会貢献への意識を変える具体的な取り組み</li> </ul>		

12	学校法人 植草学園 植草学園大学附属高等学校	2年	今井 光, 高梨 広菜
	共生社会の実現に向けて今、私たちができること		
	<p>目的 車椅子使用の生徒が入学した場合、本校の環境が適用しているか検証する。</p> <p>内容 ・千葉駅～本校までの通学路を車椅子で移動する。  ・校内の各教室やトイレなどへの移動を車椅子で移動する。  ・問題箇所をみつけて改善策を考える。  ・改善策を元に地域や学校に提案する。</p> <p>方法 ・千葉駅からの複数の通学路で、どのルートが安全に通学できるか検証する。  ・校内では施設の・人的の両面からのサポートを考える。</p>		
13	千葉県立松尾高等学校	1年	行木 宏太, 宮山 涼平 鈴木 颯斗, 藤井 孝太
	スポーツを通じた共生社会づくり		
	<p>きっかけ: 2020年開催のオリンピック・パラリンピックをヒントにスポーツを通じた共生社会づくりを考えた。</p> <p>現 状: 松尾高校は山武市にあり、成田空港から近く、外国から多くの人たちが観光や仕事で訪れている。  日本の多くの都市と同様に、山武市も急激に少子高齢化が進んでおり、高齢者が増加している。</p> <p>プラン: ①外国の方にスポーツを通して交流を深めてもらう。  プラン: ②障がい者にスポーツを通して交流を深めてもらう。  プラン: ③高齢者にスポーツを通して交流を深めてもらう。</p> <p>まとめ: スポーツ交流を通して、外国の方・障がい者・高齢者が、多くの人たちとコミュニケーションを取る事が可能になる。相互理解が深まり、共生社会づくりにつながっていくと考えた。</p>		
14	学校法人 植草学園 植草学園大学附属高等学校	2年	小林 由季, 佐藤 沙実
	目の不自由な人との接し方		
	<p>1 タイトル</p> <p>2 きっかけ この発表テーマに至ったきっかけを話します。</p> <p>3 内容説明 発表内容の大まかな説明が入ります。</p> <p>4 声のかけ方 困っている人への声かけの方法と注意してほしいことをまとめました。</p> <p>5 誘導の仕方 どのように目の不自由な方を誘導すればよいのかをまとめられています。 具体的な、日常で使えるものが多いです。</p> <p>6 自分達にできること ここまでの内容を踏まえた上で、今後自分達がどのように目の不自由な人に接していくべきか、その考えを発表します。</p>		

	千葉県立松戸向陽高等学校	3年	三橋 幸
	ともに過ごす、ともに学ぶ		
15	<p>今までの活動を具体的にパワーポイントでお見せします。  (自作のルエットクイズや、ペープサート、子どもたちが参加できるように工夫した手作り大型絵本 等)</p> <p>1. きっかけ</p> <p>① であい</p> <p>② 気づき</p> <p>③ 周りの人に聞いてみた</p> <p>2. ではどうすればいいのか</p> <p>① 私の考え</p> <p>② 具体的には</p> <p>3. 私にできること</p> <p>① 今までの私の活動(絵本研究部としての活動)</p> <p>② 今までの活動を通して私にできることを考えた</p> <p>③ これからの私の活動</p> <p>4. まとめ</p> <p>絵本などを通して、皆が一緒に楽しめる時間をプレゼントし、障がいは特別なことではなく、その人の個性のひとつであり、みんな仲間だと思って欲しい。</p>		

## 植草学園大学

発達教育学部／発達支援教育学科

保健医療学部／理学療法学科※

※2020年度に「リハビリテーション学科」に改組し、  
「理学療法学専攻」のほかに「作業療法学専攻」を新設予定。

## 植草学園短期大学

福祉学科／地域介護福祉専攻、児童障害福祉専攻

### ◆所在地

〒264-0007 千葉市若葉区小倉町 1639 番 3

TEL. 043-233-9031(代表)

FAX. 043-233-9211

### ◆アクセス

JR千葉駅 ちばフラワーバス

「植草学園行き」

運賃：390円(ICカード390円)

所要時間：約35分



JR都賀駅 ちばフラワーバス

「植草学園行き」

運賃：230円(ICカード227円)

所要時間：約15分

JR都賀駅 千葉都市モノレール

「千城台北」下車徒歩約10分

運賃：280円(ICカード278円)

乗車時間：約6分

